

を張り重ね、最後に柿渋を塗って仕上げる日本古来から伝わる伝統工芸品。絵手紙や一閑張りの指導は代表の大川和子さん。他メンバーは青木カツ子さん・小川朝子さん・関山真理子さん・菊地隆子さん・志賀三知代さん・高星恵美子さん・水庭敬子さん・矢吹恵子さんの8人。サークルは、大川さんが絵手紙を教えてほしいと懇願されたことがきっかけで始まった。今年で9年目になる。一閑張りは初挑戦というメンバーが多く、「紙を一枚一枚、乾かしながら張り重ねていくのが難しかった。でもどんどん出来上がってくると嬉しくなるー」「楽しく出来ました！」といった声。皆なかなかの出来でした！

ゆかりの地で“赤水”を偲ぶ

現在の高萩市赤浜の農家に生まれた日本地図の先駆者、長久保赤水（1717年12月8日生・1801年8月31日没）をゆかりの地で偲ぶ「赤水忌」が8月末に行われた。（主催・長久保赤水顕彰会、すばる天文同好会）

「赤水忌」は昨年に続き2回



▶松月亭跡地を見学

き、野外では望遠鏡や双眼鏡で月を観察した（説明等天文同好会）。長久保赤水顕彰会とすばる天文同好会のコラボ企画。「二人でも多くの人に赤水の名前と功績を知らせるいい機会になれば」と顕彰会事務局の三浦さん。博学な赤水の一端を学んだ「赤水忌」だった。

皇室に代々受け継がれた近現代の陶磁器の名品

茨城県陶芸美術館で、三の丸尚蔵館が収蔵する作品を中心とした「皇室と近代の陶磁 三の丸尚蔵館名品展」が開催されている。

三の丸尚蔵館は、皇室に代々受け継がれた美術品を収蔵管理・調査・公開する施設として平成5年に開館した。その収蔵品は宮中での御慶事の際の献上品や各時代の博覧会や展覧会での買上品など、貴重なものばかり。

本展は中でも近現代の陶磁器に焦点を当てたもので、明治・大正期は宮川香山や板谷波山ら皇室技芸員の名品から、昭和期以降は富本憲吉や河井寛次郎ら個人作家の作品から日本陶磁の近代を辿る。また、茨城県笠間と兄弟産地の隣県益子ゆかりの作品については、茨城県陶芸美術館のコレクション等を加えて紹介。展示作品

目。今回は日立市や北茨城市からの参加者もあり、募集人数を上回る40名が参加した。

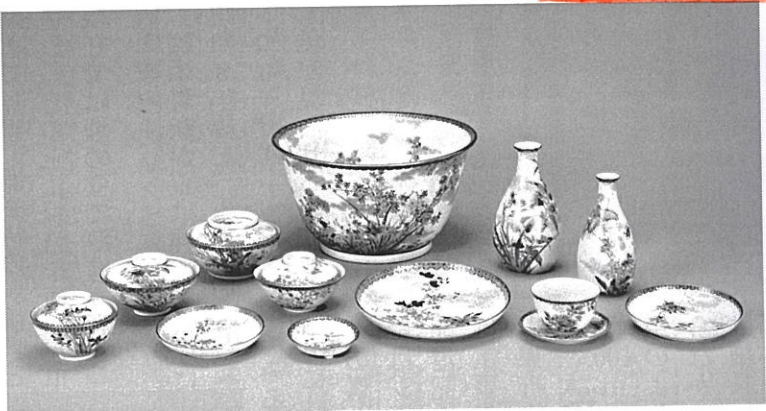
集合場所は南中郷駅より徒歩約7分の北茨城特別支援学校体育館。主催者から日程などの説明を聞いたあと、隣接する赤水ゆかりの場所を通り数百メートル先の墓所へ向かう。西向きに建つ墓石、碑文は6代水戸藩主の弟で穴戸藩主松平頼救の撰文との書で、赤水が亡くなる2年前の数え83歳の時に書いてもらったものという。お参りを済ませゆかりの場所に帰り、松月亭跡地を見学。

松月亭（赤水が名付けた）は赤水の隠居所だったところで、子孫の長久保孝徳さんが建物の内容や歴史などを説明してくれた。近くには赤水の生誕250年を記念して設置された松月亭碑がある。石碑には水戸藩第九代藩主斉昭（烈公）が旧跡松月亭をたずねたときに赤水の業績を偲んで詠んだ和歌が刻まれている。

体育館に戻り、館内に設置されたプラネタリウムでは夜空の星が地図作りにどのような利用されたかなど説明を聞



▶墓所でお参り



数は115点。
“ギャラリートーク”や“BOOKコーナー”もつと知りたい！皇室と地域の文化 茨城県立図書館 タイアップ企画 “と” いった関連企画も！

★12月10日まで 9時30分～17時（入場は16時30分まで） 休館日は毎週月曜日（ただし、10月9日、11月13日は開館）、10月10日は一般840円・70歳以上420円・高大生630円・小学生320円 ※土曜日は高校生以下無料。 ※

茨城県陶芸美術館 0

11月13日（県民の日）は無料。
296・70・0011

（写真） 幹山伝七 四季草花図食器明治時代前期（19世紀） 三の丸尚蔵館収蔵